

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

イチゴ炭疽病の潜在感染状況について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第2号を発表したので送付します。

技術情報第2号

1 作物名：イチゴ

2 病虫害名：炭疽病

3 発生状況

(1) 7月2半旬に県下12か所の育苗床の苗から複葉を採取し、エタノール浸漬法による炭疽病の潜在感染株調査を行った結果、潜在感染株率は平年・前年より低かった。また、潜在感染株確認ほ場率も、平年・前年より低かった。(表1)

- ・潜在感染株率 19.2% (平年 35.9%、前年 24.6%)
- ・潜在感染株確認ほ場率 75.0% (平年 87.5、前年 83.3%)

(2) 7月5半旬に巡回調査を行った結果、発病株率は平年・前年並であった。また、発生ほ場率は平年並・前年より低かった。(図1)

- ・発病株率 0.03% (平年 0.10%、前年 0.03%)
- ・発生ほ場率 7.1% (平年 10.6%、前年 14.3%)

4 防除上注意すべき事項

(1) ほ場をこまめに見回り、発病株及びその周辺株は速やかに除去・処分し、発病が拡大しないよう努める。

(2) 雨よけ育苗等でも風通しが悪いと発病しやすいため、苗の間隔を空け通風を図る。

(3) 窒素肥料を多用すると発病しやすいので、適正な肥培管理に努める。

(4) 発病後に治療できる薬剤はないことから、葉かぎ作業直後や降雨前後を含めて定期的な予防散布を徹底する。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(5) 低温処理時の注意事項

ア 夜冷短日処理や低温暗黒処理は苗へのストレスがかかり発病を助長するので、入庫前に生育状況を確認し、健全苗を用いるようにする。

イ 入庫する際は、過湿を避けるため、苗を詰めすぎないように注意する。

ウ 入庫前および日光処理時のかん水は、過度にならないように注意する。

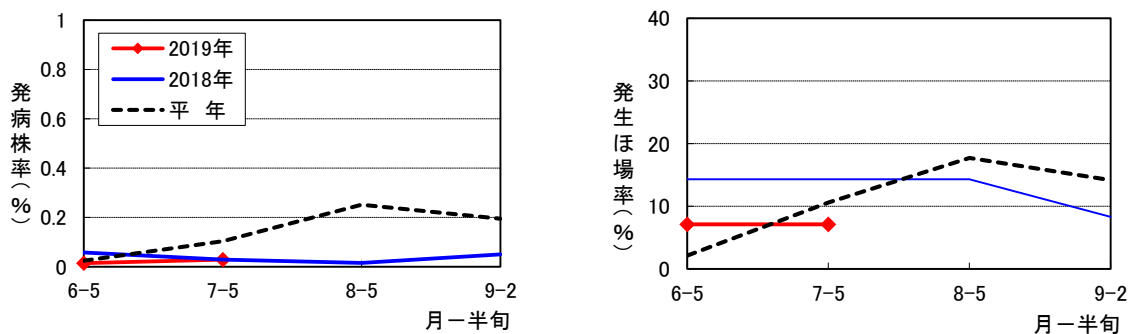


図1 巡回調査における炭疽病の発生推移

表1 イチゴ炭疽病の潜在感染株率の調査結果

(単位：%)

調査地点	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年	平年値
糸島市(本)	0	20	85	65	40	40	33.5
久留米市(田主丸)	65	65	55	20	50	30	28.0
筑前町(栗田)	15	5	90	85	75	70	48.0
飯塚市(安恒)	60	35	45	10	20	—	32.8
直方市(下新入)	5	5	40	45	5	—	23.8
田川市(弓削田)	15	30	30	80	—	—	46.7
八女市(蒲原)	10	0	60	95	0	50	31.7
筑後市(江口)	35	30	65	85	25	—	51.3
大木町(蛭池)	20	45	70	70	15	85	45.5
広川町(太田)	0	40	0	35	5	40	30.5
岡垣町(野間)	0	20	30	85	5	25	32.0
みやこ町豊津	5	0	20	10	35	0	37.0
潜在感染株率平均	19.2	24.6	49.2	57.1	23.8	38.0	35.9
潜在感染株率確認ほ場率	75.0	83.3	91.7	100.0	91.7	80.0	87.5

- 注) 1. 調査地点は、イチゴ育苗期定点調査ほ場12地点 1地点20株、1株当たり下位葉1枚を採取
 2. 平年値は、過去10カ年平均。
 3. 「—」は未調査。



写真1 炭疽病による葉の汚斑



写真2 炭疽病による葉柄の褐変

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



福岡県病害虫防除所
最新の病害虫発生状況